

幼稚園、高校、短大、大学を運営する学校法人光星学院。プロ野球選手を多数輩出するなど知名度は全国区だ。地域の人材育成を担い、系列の幼稚園、学校には約2700人が通う。理事長の法官新一さん(88)に経営哲学などを聞いた。

語る 青森・岩手 トップ

経営者として大切にしていることは。玉川大(東京)の学生時代に教育学者の小原國芳先生から学んだ「源深流遠」という言葉をずっと心に刻んでいる。源が深いほど、水は遠くまで流れるという意味で、要するにしっかりとしたものを根底に据えないとい

地域に根差した学園に

源深流遠

私の経営哲学・理念

では、教育の中身が大事だ。経験から言えるのは、学校は教師だけでは駄目というところ。特に私学の場合は、スクールバスの運行や環境整備に当たる事務員など一休となっ

人たちができるだけ深くコミュニケーションを取ることが大事だと考える。種差海岸を回ったり、夕日を見たりしていると落着く。

初代の理事長が立体的な学園構想を立ち上げ、幼稚園から大学までつくった。その財産を私たちが受け継いでいる。高等教育機関の役割は地方創生と関わって、変わってきている。地域貢献がより求められる。今やろうとしていることは外向きの「発信」だ。



学校法人光星学院 (八戸市) 法官新一さん

ほうがん・しんいち 八戸市出身。玉川大文学部卒。同大職員を経て、1973年に光星高の教員として採用。2001年に理事に就任し、常務理事、副理事長などを務め13年から現職。

◇法人概要 所在地は八戸市美保野13の98。光星学院高(現八戸学院光星高)開校の3年後の1973年に設立。八戸市や野辺地町で八戸学院大、八戸学院短大、八戸学院光星高、八戸学院野辺地西高と八戸学院短大付属の3幼稚園などを運営する。

「教育者と経営者とは異なる面もある。立場が変わり、戸惑いはなかったか。そんなに感じなかった。理事に加わった当時は、生徒が少なくなっている時期だった。教育と経営が一致しないといける方々。これは、弓道が一度たり自分を振り返ったりする。反省しな」と思う。